

大野小学校 一足早く夏祭り



▲みこしに水をかける子供たち

夏だ!祭りだ! みこしでツウイ!

七月十一日(出)は、大野小学校の子供たちの待ちに待った日でした。この日は、四年前からやっている「夏祭り」が行われるのです。この夏祭りは企画から運営までほとんど児童会を中心にした子供たちの手で実行されます。

当日は、朝八時に体育館が「大商店街」に変身してしまいました。この商店街の店は普通のお店ではありません。商店のオーナーは、四年から六年の各クラスなのです。売っている品物は、古いマンガ本やプラモデル、自分で作った品物から新調まで行つてつかまえてきた高価なクワガタムシまで。実にさまざまな子供たちの生活必需品がおいでなのです。



▲体育館狭しと行きかう子供たち

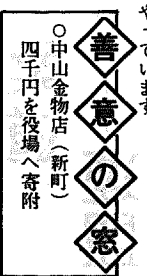
このお店は、午前九時には閉まつてしまいます。というのには、このあと舞台をグラウンドに移してみこしの水かけ合戦があるからです。子供たちは全員水着姿でグラウンドに飛び出しました。タンタンと夏祭りらしく太鼓が鳴ります。太鼓をたたいているのは、小林正人君です。渡辺校長先生と池田渉児童会長のあいさつの後、まず、一年生の七夕飾りのパレード。さらに、宝クジやおみこしコンクールと続き、いよいよおみこしの水かけ合戦です。

クロサキオープンテニス

法龍院充さんが優勝

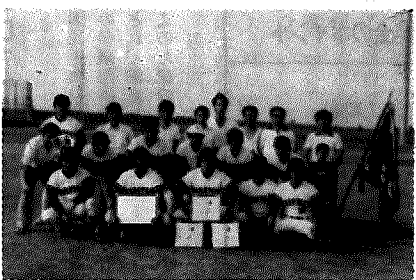
六月七日、七月五日の両日、町庭球協会主催の大会が町営テニスコートで行われ、男子シングルスは法龍院充さんが小林甲子二郎さんを6-1で下し、優勝を飾りました。

以下成績は次のとおりです。
一般男子シングルス
○準決勝
法龍院 充(6-1)上沼 茂
小林甲子二郎(6-3)佐藤健治
○決勝
法龍院 充(6-1)小林甲子二郎
一般女子ダブルス
○決勝
滝沢・山田(6-2)吉川・窪田



○中山金物店(新町) 四千元を役場へ寄附

黒鳥Aが優勝 早起き野球大会



▲優勝した黒鳥Aチーム

六月七日(日)から四日チームを集めて始まった第五回黒鳩町早起き野球大会は、黒鳥Aチームの優勝で幕とまりました。

決勝戦は、七月十二日(日)に町営野球場で黒鳥Aと山田クラブの対戦となりました。試合は、前半山田クラブが一点を先取し、そのまま逃げ切るかと思われましたが、七回表に黒鳥Aが二点を取り逆転に成功し山田Aを振り切り勝利。黒鳥Aは昨年にひき続き優勝し、二連覇を達成しました。

●決勝	—黒鳥A	2-1	山田クラブ
●準決勝	—黒鳥A	4-2	下山田
	—山田クラブ	4-1	柳田パパーズ
●準々決勝	—山田クラブ	3-1	八区
	柳田パパーズ	1-0	金巻
		3-1	鳥原イーグルス
	下山田		一心会
	黒鳥A	2-0	

大型福祉バス導入

福祉団体の足の確保にと、五百二十八万四千円を投入し、大型福祉バス「黒鳩福祉号」(五十二人乗り)が配備されました。

六月七日(日)から四日チームを集めて始まった第五回黒鳩町早起き野球大会は、黒鳥Aチームの優勝で幕とまりました。



▶活躍が期待される福祉バス

村政の概要と 政争の端

当時、警備費として経上された金額はというと、明治三十五年における村費三千六百二十五円(学区費除く)これを昭和六年予算二万九千六百九十一円中、わずか九円、その九円も火防費に当てられるのではなく、水防費として、かがり火用薪代、堤灯ろうそく代に認められていたに過ぎなかった。

これではたびたび頻発する火災の予防にも、足り得る金額でないことが当然のことであった。こうして火災による災害の甚大さに目覚め、災害地の大野では、一部負担として、明治三十六年公設消防組合設立の世論が高まり、その年四百六円を経上し、二輪車の手押ポンプ一台と、その他消防組織に要する一切の器具、被服類まで用意した。

を招集し村費二百十六円を追加補正して、団員百一名の手当を可決。以後、各大字にもしだいに実現されていったのである。もう一つ村民を悩ました出来事が、中ノ川口の出水である。このため明治三十六年五月二日の村会で、堤防巡視委員を定め、十名の巡視員が警備に当たっていた。

昭和六年発行の黒鳩村報から転載